

メッセージ件数とメールボックス サイズを調べる CUC SQL クエリ

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[データベース](#)

[テーブル](#)

[SQL クエリ](#)

[既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示](#)

[ユーザとメッセージ合計数の一覧表示](#)

[エイリアスの最初の文字に基づいた、ユーザとメッセージ合計数の一覧表示](#)

[ユーザと受信箱のメッセージ合計数の一覧表示](#)

[ユーザと削除されたメッセージ合計数の一覧表示](#)

[ユーザ、およびメッセージ、受信箱内のメッセージ、削除されたメッセージの合計数の一覧表示](#)

[ユーザのメッセージ数と最も古いメッセージの受信時間の一覧表示](#)

[ユーザのメッセージ数と最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ、合計経過時間の一覧表示](#)

[ユーザの受信箱内のメッセージ数と削除されたメッセージ数、最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ、合計経過時間の一覧表示](#)

[すべてのメールボックスのメッセージ合計数の一覧表示](#)

[ユーザのメールボックス サイズと送受信制限の一覧表示](#)

[すべてのユーザのメールボックス サイズと送受信制限の一覧表示](#)

[すべてのメールボックスを併せた合計サイズの一覧表示](#)

概要

このドキュメントでは、CLIを使用してStructured Query Language(SQL)クエリを使用してユーザメールボックスのメッセージ数とサイズを取得する方法について説明します。このデータは、[Cisco Unified Communications ToolsページのUser Data Dumpツール](#)でも取得できます。

前提条件

要件

Cisco Unity Connection (CUC) に関する知識があることが推奨されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CUC バージョン 8.X 以降に基づいていますが、この情報は以前のバージョンにも同様に当てはまる場合があります。

データベース

SQL クエリは、次のデータベースのデータを使用して形成されます。

- **UnityDirDB** : このデータベースにはユーザ関連の情報が含まれています。
- **UnityMbxDB1** : このデータベースにはユーザのメールボックスに関する情報が含まれています。

テーブル

SQL クエリは、次のビューのデータを使用して形成されます。ビューとは、2 つ以上のテーブルを 1 つに組み合わせたテーブル、あるいは同じデータを 1 つにまとめたテーブルのいずれかです。

次のビューは、UnityDirDB データベースで使用されます。

- **vw_mailbox** : このビューには、ユーザとメールボックス間のマッピング情報が含まれています。
- **vw_user** : このビューにはユーザ関連の情報が含まれています。

次のビューは UnityMbxDB1 データベースで使用されます。

- **vw_message** : このビューにはシステム内のメッセージ アイテムが含まれています。このテーブルは単なるメッセージ プロパティ ホルダーです。
- **vw_mailbox** : このビューには、受信メッセージを保持するシステムのメールボックスが含まれています。このテーブルには個々のメールボックスに関する一般的な情報が含まれており、メッセージがメールボックスに格納される方法も含まれています。

SQL クエリ

このセクションでは、CUC で使用できるさまざまな SQL クエリについて説明します。

既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示

既知のエイリアスを使用してメッセージ合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count (*) as Messages from vw_message,
unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select
mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:
vw_mailbox.userobjectid and alias='Anirudh')
```

```
messages
```

```
-----
```

```
3
```

このクエリは、複数のテーブルが関与する非常に複雑なダブル データベース クエリです。データベースとメールボックスのサイズが非常に大きいサーバの場合、出力が表示されるまでに長い時間を要する可能性があり、1 時間以上かかることもあります。これは理想的ではありません。このような状況では、代わりに次のクエリを使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count (*) as Messages from vw_message
where mailboxobjectid in (select mailboxobjectid from vw_mailbox where
description='Anirudh')
```

```
messages
```

```
-----
```

```
3
```

最初のクエリは、一意である **alias** を指定した場合にデータを返します。2 番目のクエリは、一意ではない **description** を指定した場合にデータを返します。

注：メールボックスの作成時、description は alias と同じになります。ただし、alias が更新されても、description は更新されません。小規模データベースの場合、最初のクエリが最適です。alias の変更後も description が変更されないことを実証するために、**test3** を **Atest3** に変更し、次のセクションでも使用します。

ユーザとメッセージ合計数の一覧表示

ユーザとメッセージ合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages
from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where
mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:
vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group by alias order by
messages desc
```

```
userid messages
```

```
-----
```

```
Anirudh 3
```

```
Atest3 2
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1
```

[「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。](#)

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages from
vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid =
vw_message.mailboxobjectid group by description order by messages desc
```

```
description messages
```

```
-----
```

```
Anirudh 3
```

```
test3 2
undeliverablemessagesmailbox 1
```

注：2 番目のクエリでは、alias の変更後も description は test3 から Atest3 に変更されていません。

エイリアスの最初の文字に基づいた、ユーザとメッセージ合計数の一覧表示

エイリアスの最初の文字に基づいて、ユーザとメッセージ合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages from
vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where deleted='0' and
mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where unitydirdb:
vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and alias like 'A%' group by
alias order by messages
```

```
userid messages
```

```
-----
```

```
Atest3 2
```

```
Anirudh 3
```

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages from
vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid =
vw_message.mailboxobjectid and description like 'A%' group by description order
by messages
```

このクエリに関する重要な注意点は次のとおりです。

- A% は、文字 A で始まる alias がヒットするようにクエリを設定します。
- 形式は'condition'のようなcolumnnameです。ここでは、列名は最初のクエリの別名で、2番目のクエリの説明です。

以下に条件の例を示します。

- _n%：最初の文字には任意の文字（ワイルカード）を指定できます。続いて、文字 n と文字数を指定します。

- %s：これは、文字 s で終わる alias がヒットするようにクエリを設定します。

これまでに説明したクエリは、メッセージの合計数（受信箱内のアイテムおよび削除されたアイテム）を取得するために使用されています。次のセクションでは、受信箱内のメッセージの合計数と削除されたアイテムの合計数を取得するために使用されるクエリについて説明します。

ユーザと受信箱のメッセージ合計数の一覧表示

ユーザと受信箱のメッセージ合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
```

```
inboxmessages from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user
where deleted='0' and mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and
alias like 'A%' group by alias order by inboxmessages
```

```
userid inboxmessages
```

```
-----
Atest3 2
```

```
Anirudh 3
```

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as InboxMessages
from vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid =
vw_message.mailboxobjectid and deleted = '0' and description like 'A%' group by
description order by InboxMessages
```

このクエリに関する重要な注意点は次のとおりです。

- A% は、文字 A で始まる alias がヒットするようにクエリを設定します。
- 形式は'condition'のようなcolumnnameです。ここでは、列名は最初のクエリの別名で、2番目のクエリの説明です。

以下に条件の例を示します。

- _n% : 最初の文字には任意の文字 (ワイルカード) を指定できます。続いて、文字 n と文字数を指定します。
- %s : これは、文字 s で終わる alias がヒットするようにクエリを設定します。

注：この例では、文字 A で始まる alias または description をもつユーザーに限定するために条件が使用されています。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- すべてのユーザーを一覧表示するには、最初のクエリの and alias like 'A%'、または 2 番目のクエリの and description like 'A%' を削除します。
- 特定のユーザーを一覧表示するには (たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには)、最初のクエリの and alias like 'A%' を and alias='Anirudh' で置換するか、2 番目のクエリの and description like 'A%' を and description ='Anirudh' で置換します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

ユーザと削除されたメッセージ合計数の一覧表示

ユーザと削除されたメッセージ合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
deletedmessages from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user
where deleted='1' and mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) and
alias like 'A%' group by alias order by deletedmessages
```

No records found

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as
deletedmessages from vw_message, vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid=
vw_message.mailboxobjectid and deleted = '1' and description like 'A%' group
by description order by deletedmessages
```

注：この例では、削除されたメッセージはありません。したがって、出力は No records found と表示されます。

このクエリに関する重要な注意点は次のとおりです。

- A% は、文字 A で始まる alias がヒットするようにクエリを設定します。
- 形式は 'condition' のような columnname です。ここでは、列名は最初のクエリの別名で、2 番目のクエリの説明です。

以下に条件の例を示します。

- _n% : 最初の文字には任意の文字 (ワイルカード) を指定できます。続いて、文字 n と文字数を指定します。
- %s : これは、文字 s で終わる alias がヒットするようにクエリを設定します。

注：この例では、文字 A で始まる alias または description をもつユーザーに限定するために条件が使用されています。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- すべてのユーザーを一覧表示するには、最初のクエリの and alias like 'A%'、または 2 番目のクエリの and description like 'A%' を削除します。
- 特定のユーザーを一覧表示するには (たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには)、最初のクエリの and alias like 'A%' を and alias='Anirudh' で置換するか、2 番目のクエリの and description like 'A%' を and description ='Anirudh' で置換します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

ユーザー、およびメッセージ、受信箱内のメッセージ、削除されたメッセージの合計数の一覧表示

ユーザー、およびメッセージ、受信箱内のメッセージ、削除されたメッセージの合計数の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,
sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inboxmessages, sum(case when
deleted='1' then 1 else 0 end) as Deletedmessages from vw_message, unitydirdb:
vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select mailboxid from
vw_mailbox where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid)
```

```
group by alias order by messages desc
```

```
userid messages inboxmessages deletedmessages
```

```
-----  
Anirudh 3 3 0
```

```
Atest3 2 2 0
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1 1 0
```

[「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。](#)

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description as UserID, count (*) as  
messages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inboxmessages, sum  
(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deletedmessages from vw_mailbox  
join vw_message on vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid  
group by description order by messages desc
```

このクエリに関する重要な注意点は次のとおりです。

- A% は、文字 A で始まる alias がヒットするようにクエリを設定します。
- 形式は'condition'のようなcolumnnameです。ここでは、列名は最初のクエリの別名で、2番目のクエリの説明です。

以下に条件の例を示します。

- _n% : 最初の文字には任意の文字 (ワイルカード) を指定できます。続いて、文字 n と文字数を指定します。
- %s : これは、文字 s で終わる alias がヒットするようにクエリを設定します。

注：この例では、文字 A で始まる alias または description をもつユーザーに限定するために条件が使用されています。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- すべてのユーザーを一覧表示するには、最初のクエリの and alias like 'A%'、または 2 番目のクエリの and description like 'A%' を削除します。
- 特定のユーザーを一覧表示するには (たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには)、最初のクエリの and alias like 'A%' を and alias='Anirudh' で置換するか、2 番目のクエリの and description like 'A%' を and description ='Anirudh' で置換します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

ユーザのメッセージ数と最も古いメッセージの受信時間の一覧表示

このクエリは、スケジュール設定されたメールボックスのクリーンアップジョブが実施されるかどうかを判断するために使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,  
min(arrivaltime) as OldestMessageTime from vw_message, unitydirdb:vw_mailbox,  
unitydirdb:vw_user where mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox  
where unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group  
by alias order by messages desc
```

```
userid messages oldestmessagetime
```

```
-----  
Anirudh 3 2013-03-19 14:38:14.459
```

```
Atest3 2 2013-01-18 05:49:45.355
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1 2012-07-05 01:10:19.961
```

[「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。](#)

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages,  
min(arrivaltime) as OldestMessageTime from vw_message, vw_mailbox where  
vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid group by description  
order by messages desc
```

注：前のセクションのクエリで Last Arrival Time を取得するには、count(*) as Messages のすぐ後ろに min(arrivaltime) as OldestMessageTime を追加します。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- 文字 A で始まる alias をもつすべてのユーザを一覧表示するには、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias like 'A%' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description like 'A%' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。
- 特定のユーザを一覧表示するには（たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには）、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias='Anirudh' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description='Anirudh' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

ユーザのメッセージ数と最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ、合計経過時間の一覧表示

ユーザのメッセージ数と、最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ (合計経過時間なし) の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as messages,  
min(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,  
vw_mailbox, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where  
vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid and  
vw_mailbox.mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where  
unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group by  
alias, vw_mailbox.bytesize order by messages desc
```

```
userid messages oldestmessagetime bytesize
```

```
-----  
Anirudh 3 2013-03-19 14:38:14.459 93319
```

```
Atest3 2 2013-01-18 05:49:45.355 59890
```

```
undeliverablemessagesmailbox 1 2012-07-05 01:10:19.961 317003
```

注：メッセージの合計期間を取得するには、次の手順を実行します。", sum(duration/1000)をTotalDuration_In_sec"として"vw_message"の直前に追加します。sumの前のカンマを忘れないでください。これは、前のセクションのクエリでも使用できません。

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as Messages,
min(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,
vw_mailbox where vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid
group by description, vw_mailbox.bytesize order by messages desc
```

注：メッセージの合計経過時間を取得するには、", sum(duration/1000)を TotalDuration_In_sec"として"vw_message"の直前に追加します。sumの前のカンマを忘れないでください。これは、前のセクションのクエリでも使用できます。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- 文字 A で始まる alias をもつすべてのユーザを一覧表示するには、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias like 'A%' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description like 'A%' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。
- 特定のユーザを一覧表示するには (たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには)、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias='Anirudh' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description='Anirudh' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

ユーザの受信箱内のメッセージ数と削除されたメッセージ数、最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ、合計経過時間の一覧表示

ユーザの受信箱内のメッセージ数と削除されたメッセージ数、最も古いメッセージの受信時間、メールボックス サイズ (合計経過時間なし) の一覧を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select alias as UserID, count (*) as
TotalMessages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inbox,
sum(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deleted, min
(arrivaltime) as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message,
vw_mailbox, unitydirdb:vw_mailbox, unitydirdb:vw_user where
vw_message.mailboxobjectid=vw_mailbox.mailboxobjectid and
vw_mailbox.mailboxobjectid in (select mailboxid from vw_mailbox where
unitydirdb:vw_user.objectid = unitydirdb:vw_mailbox.userobjectid) group
by alias, vw_mailbox.bytesize order by TotalMessages desc
```

```
userid total inbox deleted oldestmessagetime byte
messages size
```

```
-----
Anirudh 3 3 0 2013-03-19 14:38:14.459 93319
Atest3 2 2 0 2013-01-18 05:49:45.355 59890
undeliverable 1 1 0 2012-07-05 01:10:19.961 317003
messagesmailbox
```

注：メッセージの合計経過時間を取得するには、", sum(duration/1000)を TotalDuration_In_sec"として"vw_message"の直前に追加します。sumの前のカンマを忘れないでください。これは、前のセクションのクエリでも使用できます。

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, count (*) as
TotalMessages, sum(case when deleted='0' then 1 else 0 end) as Inbox,
sum(case when deleted='1' then 1 else 0 end) as Deleted, min(arrivaltime)
as OldestMessageTime, vw_mailbox.bytesize from vw_message, vw_mailbox
where vw_mailbox.mailboxobjectid = vw_message.mailboxobjectid group by
description, vw_mailbox.bytesize order by TotalMessages desc
```

注：メッセージの合計期間を取得するには、次の手順を実行します。",
sum(duration/1000)をTotalDuration_In_sec"として"vw_message"の直前に追加します。
sumの前のカンマを忘れないでください。これは、前のセクションのクエリでも使用できま
す。

このクエリにはいくつかのバリエーションがあります。

- 文字 A で始まる alias をもつすべてのユーザを一覧表示するには、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias like 'A%' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description like 'A%' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。
- 特定のユーザを一覧表示するには（たとえば、Anirudh のメールボックスの数を一覧表示するには）、最初のクエリの group by alias 条件の直前に and alias='Anirudh' を追加するか、2 番目のクエリの group by description 条件の直前に and description ='Anirudh' を追加します。置換は必ず正確な位置で行ってください。位置を間違えると、クエリが失敗します。

すべてのメールボックスのメッセージ合計数の一覧表示

すべてのメールボックスのメッセージを併せた合計数を取得するには、次のコマンドを入力しま
す。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select count(*) as messages
from vw_message
```

```
messages
-----
6
```

ユーザのメールボックス サイズと送受信制限の一覧表示

ユーザのメールボックス サイズと送受信制限を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitydirdb select alias as UserID,bytesize,send,receive,
warning from vw_user,unitymbxdb1:vw_mailbox where vw_user.objectid in (select
userobjectid from vw_usermailboxmap where
vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectid and
alias='Anirudh')
```

```
userid bytesize send receive warning
-----
Anirudh 93319 13000000 14745600 12000000
```

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, bytesize,send,receive,
warning from vw_mailbox where description = 'Anirudh'
```

すべてのユーザのメールボックス サイズと送受信制限の一覧表示

すべてのユーザのメールボックス サイズと送受信制限を取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitydirdb select alias as UserID,bytesize,send,receive,
warning from vw_user,unitymbxdb1:vw_mailbox where vw_user.objectid in (select
userobjectid from vw_usermailboxmap where
vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectid) order by
bytesize desc
```

```
userid bytesize send receive warning
-----
undeliverablemessagesmailbox 317003 13000000 14745600 12000000
Anirudh 93319 13000000 14745600 12000000
Atest3 59890 13000000 14745600 12000000
Solomon 0 13000000 14745600 12000000
UnityConnection 0 50000000 50000000 45000000
Suvir 0 13000000 14745600 12000000
dsas 0 13000000 14745600 12000000
test1 0 13000000 14745600 12000000
Atest2 0 13000000 14745600 12000000
operator 0 13000000 14745600 12000000
```

「既知のエイリアスを使用したメッセージ合計数の一覧表示」セクションで言及した同じ理由で、次のクエリも使用できます。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select description, bytesize,send,receive,
warning from vw_mailbox order by bytesize desc
```

このクエリのバリエーションとしては、文字Aで始まるエイリアスを持つすべてのユーザをリストするために、vw_usermailboxmap.mailboxid=unitymbxdb1:vw_mailbox.mailboxobjectidとbeforeの最初のクエリに「A%」などの追加エイリアスを追加追加order by条件の直前の2番目のクエリです。正しい位置に追加されているか、クエリが失敗していることを確認してください。

すべてのメールボックスを併せた合計サイズの一覧表示

すべてのメールボックスを併せた合計サイズを取得するには、次のコマンドを入力します。

```
admin:run cuc dbquery unitymbxdb1 select sum (bytesize) from vw_mailbox
```

```
(sum)
-----
2683210
```

admin: